

非恩恵を表すとされる「テヤル」の意味分析

部田 和美(筑波大学大学院)

1. はじめに

授受補助動詞テヤルには、本来の恩恵行為を表す用法の他にも、相手に被害を与えたり自分の強い意志を述べたりといった非恩恵的な用法があることが広く知られている。

- (1)彼の秘密をみんなにばらしてやった。
- (2)今度こそ試験に合格してやる。

これらを周辺のなものとしてではなくテヤルの持つ一用法として分析されているものとしては豊田(1974)、山田(2004)などが挙げられるが、それほど多くない。本発表では、このように多様な意味が起こる理由について、テヤルの意味素性から考察する。

2. 先行研究

2.1 豊田豊子(1974)

話し手の行為の全く話し手側からの主観的な表現(pp82)

豊田の分類 「方向を表すもの」

「意志性を表すもの」:「受給関係を表す用法」

「意志・強意を表す用法」

a 方向を表すもの

- (3)彼は伯父には洩らさぬ不平を(妻に)言ってやった。
- (4)Kはその度に心配するには及ばないと答えて遣ったのだそうです。((3)(4)とも pp89)

b 意志を表すもの

・「受給関係を表す用法」:対象語に向かって動詞が働いてマイナスの利益になっている¹。
→恩恵型との共通性指摘

- (5)ぼくは、ボロージャよりも、もっと高く登ってやるぞ。
- (6)ああ、もういっそ悪徳者として生き延びてやろうか。 ((5)(6)とも pp85)

・「意志・強意を表す用法」:自己主張・自己の意志の顕示。自分の感情が高まった時の表現に使われる。対象に働きかけはない²。

- (7) 資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。

1 「お前が嫌がるなら」「お前を嫌がらせるために」が文脈に示されていたり、それと分かるような時(豊田 1977:86)

2 「お前が嫌がるなら」「お前を嫌がらせるために」という条件がない時

(8) 畜生、この仇はきつととってやる。

((7)(8)とも pp87)

これまで「非恩恵的」と一括りにされてきた中身を具体化し、恩恵型と非恩恵型の連続性を示唆

→しかし、豊田の分類に当てはめようとする曖昧になってしまうものがある。

2.2 山田(2004)

豊田の分類を評価しながらも、動作の「対象」と「受影者」が混同されている点を指摘³。

→「受影者の有無」による恩恵、非恩恵を連続的に捉える。

山田の分類⁴「恩恵型テヤル」

「非恩恵型テヤル」：受影者存在型非恩恵テヤル

受影者非存在型非恩恵テヤル

「非恩恵型テヤル」

・受影者存在型

(9)よし、そんなら今日は肋骨が折れるまでひっぱたいてやる。(pp199)

↓

・受影者希薄型

(10)二人をさがすために電話をかけたまくってやるんだ! (pp208)

↓

・受影者非存在型

(11)少々かせいでやろうと思ひ、なにかうまくいくことはないかと、あちらこちら探って歩いていた。 (pp201)

「恩恵型」から「非恩恵型」へ、また「非恩恵型」は「受影者存在型(9)」から「非存在型(11)」へと連続的

↓

「恩恵型」と最も遠い位置にある「受影者非存在型」は真正モダリティ形式へ文法化⁵。

³ 山田は、豊田が動作の対象として直接的な観点からして述べていないことを指摘。影響を受けるものとして間接的な受影者も考察対象にしなければならないとし、「働きかけの対象の有無」ではなく「受影者の有無」とした。

⁴ 豊田(1974)の分類に大きな違いがあるわけではなく、豊田の分析に「受影者」という観点をつけたものと言える。このことについては山田自身も指摘している。

受給関係を表す用法 … 受影者の存在想定

意志・強意を表す用法 … 受影者の存在は意識されていない。

⁵ 山田(2004)ではテイルのモダリティ化について、仁田(1989a)で挙げられているモダリティ形式のプロトタイプから検証している。その三つとは、「過去にならない」「話し手以外の心的態度に言及しない」「態度そのものの非存在を表す否定にならない」で、受影者非存在テヤルはこれらの条件を満たしていることを述べているが、本稿でも挙げているように過去形の例も多く見られる。また他の条件についても再考の余地あり、モダリティ化については慎重に見ていく必要があるが、本稿では割愛する。

2.3 テヤルの意味分析の課題

豊田、山田とも恩恵的・非恩恵的表現を、対象への働きかけ(豊田)や受影者の有無(山田)によって、それぞれ別のものでなく関連性のあるものとして捉えている。しかし、意味の転化や、両者が指摘する関連性、連続性がなぜ起こるのか、この意味の変化に受影者がどう関与しているのか等といった疑問には明確な答えは出されていない。またこの他に「事態改善表示用法」「非意志的事態の意志的事態化」用法などを挙げているが(5節参照)、本来の用法とは離れたものとして扱われている。これらの派生がどのような要因によって起こるのかについても考える必要があるが、「恩恵性」や「受影者」といった観点からは分析に限界があるように思われる(4節参照)。本発表では、テヤルの意味素性を立てることで、これらの統一的な分析を試みる。

3. 本動詞ヤルの意味性質について

ヤル：与え手の恩恵的な働きかけによって、モノ(コト)が所有権変化する。

(12)太郎は花子に本をやった。

→太郎の働きかけによって、本が花子の所有に変化

(13)太郎は砂浜の貝殻を拾って、花子にやった。

→太郎の働きかけによって、貝殻が花子の所有に変化

(14)先生は生徒に考える時間をやった。

→先生の働きかけによって、(定められた)時間を利用する権利が生徒の所有に変化

ヤル文では—

・常に与え手の意図的な恩恵行為を示す。

(15)*みつばちがおいしい蜂蜜をみんなにやる。

(cf みつばちがくれる／みつばちにもらう)

・受け手に向かった直接的な方向性を持つ。対象が恩恵的であるかどうかは与え手の判断

(16)*ぼくは落ち込んでいる子供たちに元気をやった。

(cf 子供たちに元気をもらった／子供たちが元気をくれた)

(17)近所の子供にお菓子をやった。／近所の子供にお菓子を与えた。

(cf せっかく近所の子供にお菓子をやったのに、泣かれた。

??せっかく近所の子供にお菓子を与えたのに、泣かれた。)

ヤルの意味素性：〈働きかけ〉〈所有権の変化〉〈恩恵〉

〈働きかけ〉：(+直接的) (+意図的)

〈所有権の変化〉：(移動) ※ () 内は 〈 〉 の下位分類

4. 補助動詞テヤルの意味性質について

4.1 ヤルからの意味推測

本動詞ヤルの持つ性質が関係しているのは言うまでもない。

ヤルの意味から推測すると一

a ヤルでは変化及び恩恵性は全て与え手側の判断である。

→①受影者に変化を及ぼしたかどうかは動作主の判断。

・受影者が無意志物も可能

(18)涙が出そうになったが我慢をした。鼻水が出た。目を開けたままなので瞑らせてやった。優しい顔をして死んでいる。

(19)彼女は全力をこめて葉をバタバタ動かして、ハツカネズミを失神状態から呼びさましてやった。 ((18)(19)とも BCCWJ より)

・非意図的な副詞とは共起しにくい

(20)??うっかり花子に話してやった。(cf うっかり花子に話してしまった。)

(21)??持っていたグラスを思わず落としてやった。(cf 思わずグラスを落とした。)

b ヤル(クレル・モラウ)文では「モノ・コトの所有権変化」を表す。

→②働きかけによって、受影者に何らかの物理的、心理的、状況的变化が起きる。

(22)太郎は花子に本を買ってやった。

…太郎の働きかけで花子に物理的变化が起こる。

(23)太郎は花子の部屋を掃除してやった。

…太郎の働きかけで、(花子の部屋がきれいになるという)花子にとって状況的变化が起きる。

(24)太郎は花子の秘密をばらしてやった。

…太郎の働きかけによって(花子の秘密がばれるという)花子にとって状況的变化が起きる。(非恩恵的な現象でも説明可能)

(25)ひまだから、ちょっとその辺を歩いてやった。…? (次節で考察)

4.2 恩恵性の曖昧性

恩恵・非恩恵の曖昧性

(26) 残りの料理を全部食べてやった。(恩恵)

(27) 彼女を困らせようと思い、残りの料理を全部食べてやった。(非恩恵)

(28) うつぶんを晴らしたくて、残りの料理を全部食べてやった。(意志・強意)

→文脈を加えない状態では恩恵的意味が強いが、文脈次第でいくらでも変化

山田(2004)では受益者の有無によって判断。しかし以下の例では受影者で判断できない。

- (29)花子にはうそをついてやった。(花子を悲しませたくないから…) …恩恵
 (30)花子にはうそをついてやった。(花子が大嫌いだから…) …非恩恵

そもそも動詞の意味によっても左右される。

- (31) 直してやった。…恩恵
 (32) 壊してやった。…非恩恵

↓

言えるのは、動作主が何らかの意図を持って受影者に向けた働きかけをおこなっているということ。

4.3 テヤルの定義

テヤルは、動作主の意図的な働きかけがその意味生成に強く関与している。

→恩恵的であるかどうかではなく、どのような意図的行為であるか?の違い

(仮説)

テヤルの意味素性： 〈働きかけ〉 (+意図的) (+直接的)

() 内は 〈 〉 の下位分類

〈働きかけ〉

物理的・心理的・状況的变化⁶を期待しての、受影者に向けた行為

(+意図的)

相手に変化を及ぼすことを意図した行為。それがプラスの行為でもマイナスの行為でも構わない

(+直接的)

受影者を到達点とした方向性を持つ。影響を及ぼすことを目的とする相手が存在

↓

受影者の変化を望んだ意図的働きかけ

(33)??ぼくは性格が変わって(いて)やった。…「変わり者」の意で。

(cf 次に花子に会う時までには、性格が変わって(いて)やる。)

では、受影者がいないとされる時の、いわゆる「強い意志・自己顕示」と言われるテヤルはなぜ起こるか?

一つの推測として—

「受影者非存在型」とされるテヤル文では、動作主自身がその到達点として転化され、

⁶ ここでの「心理的变化」とは、実際受影者に変化があったかではなく、動作主がそう捉えるという意味である。テヤルではあくまで動作主の判断によって成り立つ。

再帰的な表現になるのではないか？

→この場合、動作主は自分自身に何らかの変化を及ぼすことを意図することになる。

(34)昨夜は思い切り飲んでやった。…ストレス発散のために

(35)ひまだから、ちょっとその辺を歩いてやった。…ひまつぶしに

(36)??自分のパソコンにコーヒーをこぼしてやった。…違和感有り

→新しいパソコンを買って欲しくて、自分のパソコンにコーヒーをこぼしてやった。

※自分にマイナスになるような行為は不自然(動作主にとって望ましい理由が必要)

自分の為に行う(または行った)行為を「わざわざ」言表するということで、自己顕示的な表現になるとも考えられる。

5. 現象の観察からの検証

5.1 非意志的事態の意志的事態化⁷

意志性がないのにテヤル文が可能になるものがある。

(37)包帯なんか、3日でとれてやる。

(38)ヘアチェックに行って、髪の毛がふさふさになってやる。(以上山田 2004:196)

→事態に対する自己制御性⁸が関与(山田 2004)。事態、または事態生起の過程に対して自己のコントロールが可能なもの

(39)?? 一生懸命書いた絵が入選してやる。

(40)??講演がウケてやる。(以上山田 2004:196)

…非自己制御性の動詞

しかし、以下は「過程の自己制御性」であっても不適切。

(41)??株で成功して、財産が増えてやる。

(42)??新しい事業が成功してやった。

↓

意図的事態化が可能になるのは、話し手が自らに直接的に働きかけることによって、自分の望む変化が身に起こり得ることを示すもの。

⁷ 山田(2004)でこの現象について詳しく観察されている。

⁸ 仁田(1990)による。動作主の動きの発生、遂行、達成に対する意志的な制御という観点から、「達成の自己制御性」(意志的なもの：行く、食べる、読む等)、「過程の自己制御性」(達成までの過程を制御可能：勝つ、合格する、思い出す)、「非自己制御性」(意志で制御できない：飽きる、困る、分かる等)の三つに分けられる。

- (43) 来週までに(捻挫した)足が治ってやる。
 (44) アラビア文字だって、3カ月あれば読めてやるよ。 (山田 2004:196)
 (45)*壁にぶつかって、腕が折れてやった。

リハビリや勉強など、話し手の行為によって話し手自身に変化が起きることを示している。「絵が入選する」「講演がウケる」などはこのような関係はなく、間接的なつながりでしかない。(cf 大学での講演がウけてくれた/展覧会で私の絵が入選してくれた)

しかし、自身に対する直接的な働きかけが可能であっても不自然な場合有り

- (46) *髪が乾いてやった。
 (47) *(ぼくは今伸び盛りだから)身長が伸びてやる。

「髪が乾く」「身長が伸びる」などは、働きかけをしなくとも自然と成立する事態。「足・病気が治る」「包帯がとれる」などもそうだが、「来週までに」「三日で」などのように事態成立の期間を限定することで、意図的な働きかけが必要となる。

↓

意図的な働きかけによって、動作主自身に変化 → テヤルの意味素性に一致

5.2 事態改善表示用法

恩恵という意味が薄れた用法。テヤルが「受益者に対する恩恵表示」を意味せず、事態改善の用法へとずれこんでいる。(山田 2004:81)⁹

- (48) 10円玉ほどを手に取り、髪全体に伸ばしてやりましょう。
 (49) キャップの部分を押さえてやると、うまくはずせます。

↓

意図的な働きかけで動作主の望む事態に変化(受影者の髪がきれいになる etc)
 →テヤルの意味素性に一致

これまでテヤル本来の用法と離して考えられてきたものも、仮説で立てた意味素性で説明可能になる。

6. まとめと課題

本発表では豊田(1974)や山田(2004)の分析を否定するものではないが、「受影者への恩恵表現」とする考え方から離れ、「受影者に向けられた意図的な働きかけ」がテヤルの基本義であるとした。その働きかけがプラス方向であれば「恩恵表現」に、マイナス方向であれば「非恩恵(マイナス利益)」表現になり、両者を隔てるような制限はなく、そのため文脈次第で恩恵

⁹ 他に村田(1994) 乱暴な感じを避け、言葉の丁寧さをひたすら追求

にも非恩恵にもなり得る。これらの好意・悪意といった働きかけについて、また動作主自身が受影者になると推測したテヤルについては、「テクレル・テモラウ」との対照も含め、更なる考察が必要である。またテヤルについて以下のような課題も挙げられる。

- ・第3者が主語の、ニュートラルな表現をどう説明するか？
 - ・派手な女子高生がおばあさんの手を引いてやるのを見た。
 - ・5歳の娘が一生懸命小さい弟の面倒を見てやっている。
 - ・非過去のテヤル
 - ・こうなったら何が何でも合格してやる。
 - ・君の宝物は、ぼくが見つけてやる。(cf 太郎の宝物はぼくが見つけてやった。)
- ル形のモダリティが関係しているのか？ヤルの性質からなのか？

〈参照文献〉

- 奥津敬一郎(1986)「やりもらい動詞」『国文学 解釈と観賞』51-1
- 古川俊雄(1995)「授受動詞「くれる」「やる」の史的変遷」『広島大学教育学部紀要 第二部』44
- 佐久間鼎(1936)『現代日本語の表現と語法』厚生閣(1983 くろしお出版より再版)
- 鈴木丹士郎(1972)「動詞の問題点」『品詞別日本文法講座3 動詞』明治書院
- 豊田豊子(1974)「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』1号 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 仁田義雄(1989)「現代日本語の文のモダリティの体系と構造」『日本語のモダリティ』くろしお出版
- 仁田義雄(1990)「働きかけの表現をめぐって」『国語論究2 文字・音韻の研究』
- 仁田義男(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 黄順花(1996)「日本語のシテヤル・シテクレル—日本語と韓国語—」『国文学解釈と鑑賞7』
- 堀口純子(1987)「「～テクレル」「～テモラウ」の互換性とムード的意味」『日本語学』16-4
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『日本語学』4 明治書院
- 村田美恵子(1994)「「やる・してやる」と「あげる・してあげる」」『国文学 解釈と観賞—特集現代語のゆれ』59-7 至文堂
- 山橋幸子(1999)「「てくれる」の意味機能—「てあげる」との対比において—」『日本語教育』103
- 山本裕子(2002)「「～テクレル」の機能について—対人調整的な機能に注目して—」『言葉と文化』4 名古屋大学国際言語文化研究科
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』 明治書院

参考資料

BCCWJ 現代日本語書き言葉コーパス